

学校園名	宝塚市立 仁川 幼稚園	校園長名	上木 美佳
------	-------------	------	-------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子

- ①元気に遊び、思いやりのある子 ②あきらめずにやりぬく子 ③自分で考えて行動する子

2 重点目標

- ・ 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。
- ・ 豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。
- ・ 「こころと心のふれあい」を大切に、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣と態度の育成に努める。
- ・ 学校や家庭、地域・保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	開かれた幼稚園づくり 情報発信 園庭開放 保護者の保育参加	B	保護者説明会の機会がもちにくくなり、ホームページの更新を心掛けたが、毎日の更新は実現できなかった。
	衛生安全管理体制整備 施設・不審者対応 安全点検・衛生管理	B	感染対策に徹したが、第6波の感染拡大に歯止めをかけることが出来なかった。感染拡大傾向の際の対応については、職員のチームワークをさらに強化したい。
	子育て支援の推進 預かり保育の充実 相談の充実 学びの場の提供	B	預かり保育利用率はコロナ禍にもかかわらず増加。相談事業も継続した。保護者同士の情報交流の場の提供については来年度の課題。
	教職員の資質向上 落ち着いた学級経営 保護者との連携	B	公開保育及びICT導入の準備体制を図る研修を強化した。近隣保育園との合同研修も実施。時代の急速な変化に対応する保育や保護者支援については、教師の力量向上を目指した研修と研鑽の必要性を感じる。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫 主体的に遊ぶ創造的な保育の充実	A	幼児の興味関心に沿った遊びを重視。幼児の主体性が発揮された、また、学級の枠組みを超えた異年齢の交流による学び合いや、意欲・思いやりの心の育成については成果が見られた。
	基本的生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成 生活習慣の確立 発達に応じた道徳性の芽生えの育成	B	保護者が幼児の自立を促して下さるようになり、自分でできる事は自分でしようとする態度が身に付いてきた。また、困ったことがあっても、大人を頼らず、仲間と助け合おうとする意識が高まっている。
	校種間連携 近隣保育所・小学校との交流	B	5歳児がウエル保育園・さくらんぼ保育園と園児交流する機会が増えた。コロナ禍でも、有意義な体験ができた。小学校との連携は来年度の課題。
課題教育	人権教育の推進 幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	自分の意見が言える、人の意見が聞けるなど、自分も人も大事にできる温かい雰囲気づくりに努めた。
	特別支援教育の充実 配慮を要する幼児を核にした学級経営	B	長期的な見直しをもって、幼児自身が自らの良さに気づき、苦手意識を克服できるように援助。幼児同士のかわりの中で学び合う機会を重視した。

4 評価項目ごとの学校関係者評価
コロナ禍の中でも、多くの行事が実施でき、子どもたちにとっては充実した1年間だったのではないだろうか。休園の前に実施した「幼稚園評価」では、保護者からA評価が多かった。「衛生安全管理」の項目は、休園になったためにB評価になったのだと思うが、園の管理体制としてはA評価でもよいと感じる。
保護者同士の交流の場は、今年度は難しかった。ボランティア活動などが再開できれば、保護者同士のつながりも深くなっていくのではないだろうか。
感染不安でお休みだった子どもも多いと思うが、子どもは先生との信頼関係があり、いつ登園しても大丈夫だと感じていた。安心して幼稚園に通うことが出来たことが良かったと思う。
子どもたちは、学年の枠を越えてよく遊んでいた。毎日、「幼稚園に行きたい」と楽しみにしていた。 また、できる限りの体験ができるように工夫されていたと思う。 キャンプは中止になったが、子ども自身が失敗して学ぶことは多い。今後も、たくさん失敗し、自分で感じて、自分で理解して行動できる子どもに育ててほしい。 また、負けて泣く子には、「あなたがいたから勝負が楽しかった」と教えてほしい。
特に5歳児は1学級なので、他の施設との交流は有意義だと思う。競争したり、自分達の取り組みを見せ合ったりする場は大切である。
幼児期の人権感覚の大切さについては、引き続き、保護者の理解を得ることが出来るように継続してほしい。
どの子どもも幼稚園での生活を楽しんでいる。互いの成長を、保護者も一緒に喜んでくださる温かさが、さらに子どもを成長させているように思う。

独自項目	未就園児の居場所づくり	遊びの広場の充実	B	もも組の実施は大きな成果。2歳児の保育については、職員不足と感染対策上の影響を受け、十分な実施が困難であった。
	地域との連携	まちづくり協議会等地域組織との連携	B	今年度も、「とんど」「校区人権」「ハイキング」「凧あげ」等、コロナ禍でも実施できた活動は多く、PTAの協力を得て、子どもの体験が広がっている。「仁川っ子太鼓」は、今年度の取り組みを継続し、幼稚園の文化として引き継いでいきたい。

2歳児の保育は十分ではなかったかもしれないが、「もも組」の保育は大変大きな成果。C評価はせめてB評価に是正してほしい。
弁天池の掃除は、年間2回。土曜日に開催されるので、参加は難しいかもしれないが、地域の大切な環境なので、是非参加して、子どもが地域づくりの一員として活動できるよう幼稚園でも誘いかけてほしい。